

## ZANDEN Model 120 の展開(66) ーベーターヴェンを聴き直す(1)ー

### 1. 始めに

前報(65)までに、65 報にわたってグラモフォンのベーターヴェン全集を集中的に聴いてきましたが、さらに、この機会にこれまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、直近にベーターヴェン全集からチェロソナタを聴いたことから、下記を選定しました。

#### odyssey 32 36 0016

チェロソナタ全集

パブロ・カザルス (チェロ) ルドルフ・ゼルキン (ピアノ)

#### CBS SONY 32AC-1216

チェロソナタ 3 番イ長調作品 69

チェロソナタ 5 番イ長調作品 102-2

堤剛 (チェロ) ロナルド・トゥリーニ (ピアノ)

これらは、下記で報告されています。

[アナログ再構成後の活用\(4\)](#)

## アナログ再構成後の活用(5)

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

odyssey 32 36 0016 のチェロソナタ全集は、ZANDEN のリストには Columbia、逆相とあり、第 4 時定数を変えながら聴いていきました。第 4 時定数を High→Mid→Low と変えて行きますと、ピアノの響きが豊かになり、チェロも膨らみがでてきます。試みに、RIAA の正相にしてみますと、やや素っ気ない印象になります。第 4 時定数 Low では、やや古い録音ですが、カザルスとゼルキンの意気込みみたいなものが伝わってきます。また、ところどころにカザルス節みたいなものが感じられます。

CBS SONY 32AC-1216 のチェロソナタ 3 番と 5 番は、CBS SONY の国内盤ということで、COLUMBIA、逆相、第 4 時定数 High の条件で聴いてみました。初期のデジタル録音ですが、[アナログ再構成後の活用\(5\)](#) の時点から、前報(24)で報告したように、ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、デジタル録音臭さもなく、2 曲とも豪快に弾き切っており、アナログらしいクオリティで楽しめます。試みに、RIAA の正相にしてみますと、何か薄っぺらな印象になります。

### 4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上